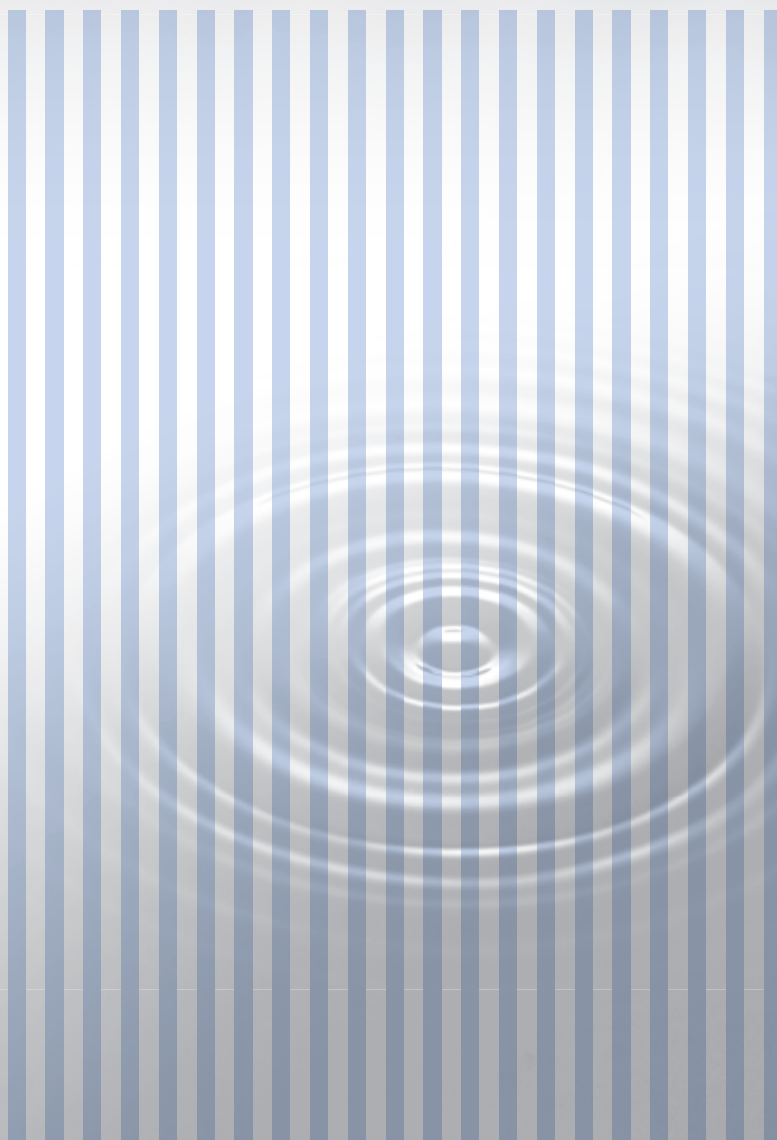


2008
年版

がん緩和ケア ガイドブック

監修  日本医師会



本書は平成19年度厚生労働省委託事業により作成しました

序

わが国では、現在、がんによる死亡が年間 30 万人を超えており、死因の第 1 位となっています。今後、さらに高齢化が進展することなどから、がん医療の一層の充実を図り、国民の生命および健康を守ることが求められております。

このような現状認識の下、平成 19 年 4 月に「がん対策基本法」が施行され、また同法に基づいて同年 6 月には「がん対策推進基本計画」が策定されたことを踏まえ、日本医師会では、がん対策推進委員会（委員長：垣添忠生 国立がんセンター名誉総長）を設置し、がん対策をより一層推進していくこととしています。

このたび、「がん対策推進基本計画」の重点課題のひとつに掲げられている「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」を推進し、がん患者およびその家族の苦痛の軽減ならびに療養生活の質の維持向上に資するため、がん対策推進委員会緩和ケア小委員会（小委員長：江口研二 帝京大学医学部内科学講座教授）が中心となり、厚生労働省の委託事業として、『がん緩和ケアガイドブック』を作成いたしました。

本冊子は、実際に緩和ケアを提供する場で広くご活用いただけるよう、がん患者の緩和ケア全般について解説しています。また、平成 20 年度より都道府県、がん診療連携拠点病院等が主催して全国で開催される予定の「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」で、テキストとして使用することも想定した内容となっています。がん医療の水準の向上が図られ、がん患者が可能なかぎり快適な療養生活を過ごせるようになることを期待したいと思います。

あらためまして、本冊子の刊行にあたり、ご執筆いただいた先生方をはじめ関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 20 年 3 月

日本医師会会長 唐 澤 祥 人

目 次

序（唐澤祥人）

I はじめに

1. 目 的	1
2. 本書の見方・使い方	1
3. 用語と解説	4
4. 緩和ケアとは	8
5. 日本人にとって望ましいクオリティオブライフとは	11
6. 日本人が希望する療養場所	12
7. 日本人が希望する余命告知	12
8. 緩和ケアを専門的に提供する機関	13

II 症状マネジメント

1. 評 価	14
(1) 症状の評価	14
(2) 疼痛の評価	16
2. 疼 痛	20
(1) NSAIDs の開始	22
(2) オピオイドの導入	26
(3) 残存・増強した痛みの治療	34
(4) オピオイドの副作用対策	42
a 嘔気	42
b 便秘	44
c 眠気	46
d せん妄	48
(5) 疼痛マネジメントのスキル	50
a オピオイドローテーション	50
b オピオイド力価表	52
c 経口オピオイドを内服できなくなったときの対処	53
d 鎮痛補助薬の使い方	54
3. 呼吸困難	56
4. 消化器症状	62
(1) 嘔気嘔吐	62
(2) 食欲の低下	66
5. 倦怠感	68
6. 気持ちのつらさ	70
7. せん妄	76

Ⅲ 緩和ケアのスキル

1. ステロイドの使い方.....82
2. 高カルシウム血症の治療.....83
3. 持続皮下注射.....84
4. 皮下輸液.....86

Ⅳ コミュニケーション

1. 悪い知らせを伝える方法.....88
2. 悪い知らせを受けた患者・家族に対応する.....90
3. 緩和ケアの専門家を紹介する.....92

Ⅴ 資料

1. 薬剤の一般名と代表的な商品名の対照表.....96
2. よくある質問一覧.....98
3. 参考文献.....99

あとがき (内田健夫).....100